

令和4(2022)年度 就職先アンケート調査報告書

1. 目的

卒業生の就職先にアンケート調査を行い、本学の教育改善を図るための参考資料として活用する。

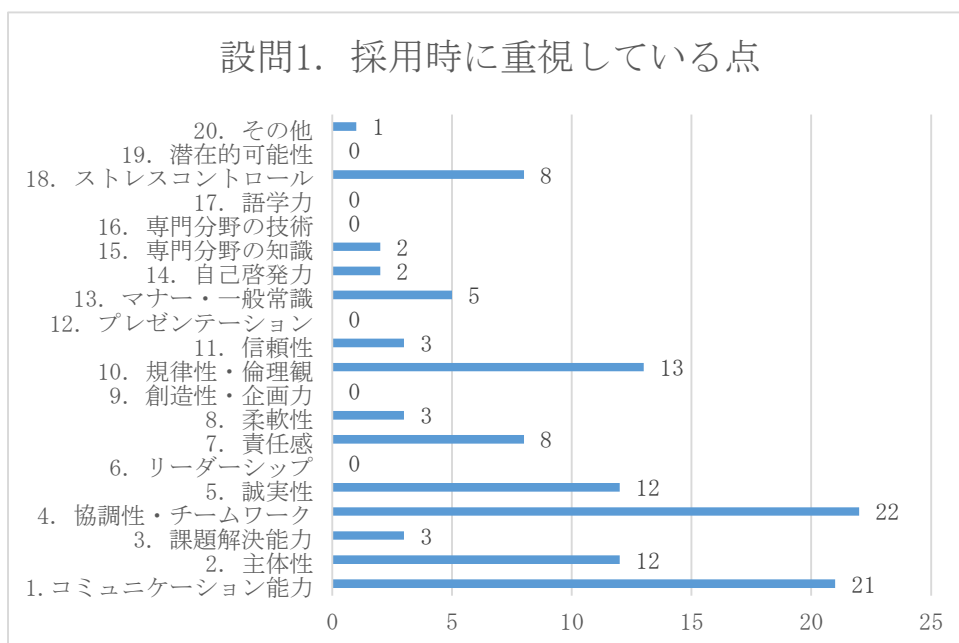
2. 方法

- 1) 調査期間：令和4(2022)年12月16日(金)～令和5(2023)年1月31日(火)
- 2) 調査対象：令和2年度及び令和3年度卒業生採用の57施設(別紙1参照)
- 3) 回答方法：書面及びGoogleフォームいずれかによる回答
- 4) 設問内容：別紙2参照
- 5) 集計数：依頼57件中24件回答(Googleフォーム3件、文書返送21件) 回答率42%

3. 集計結果

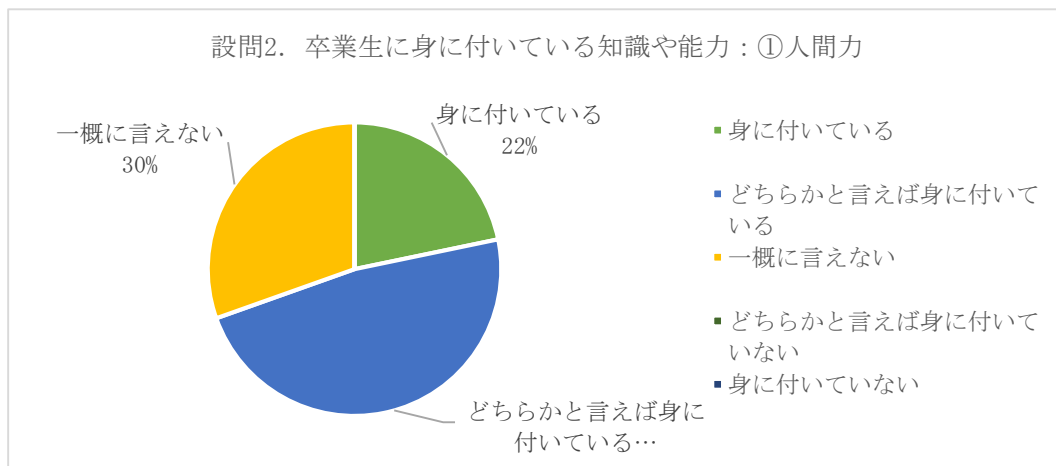
1) 設問1 看護師・保健師として採用時に重視している資質・能力について(複数回答)

「協調性・チームワーク」が22件、「コミュニケーション能力」が21件回答され、ほとんどの施設が他人と関わる能力を重視していることが窺えた。次点では「規律性・倫理観」が13件、「主体性」及び「誠実性」が各12件回答され、多くの施設が個人の価値観や行動原理、社会的規範等の人間性を重視している傾向が見えた。

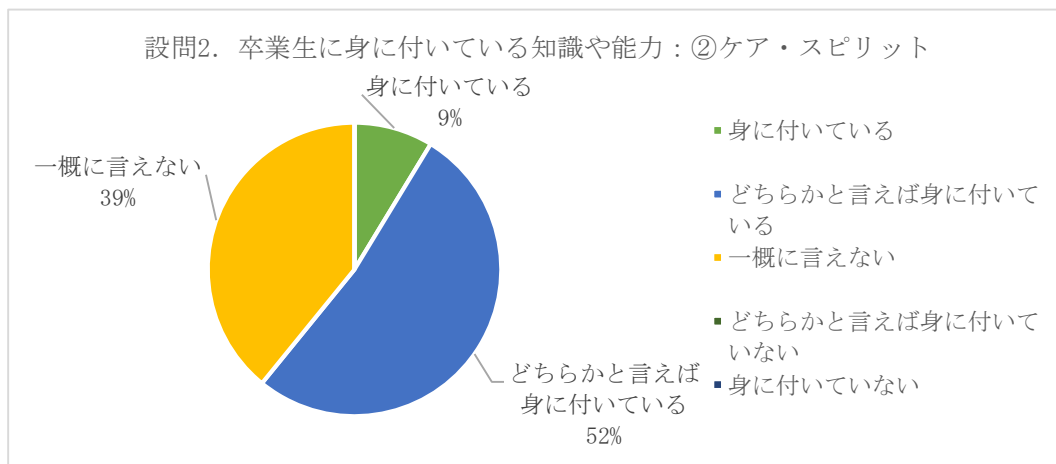


2) 設問2 本学が掲げるDP6項目が卒業生に身に付いているかどうかについて

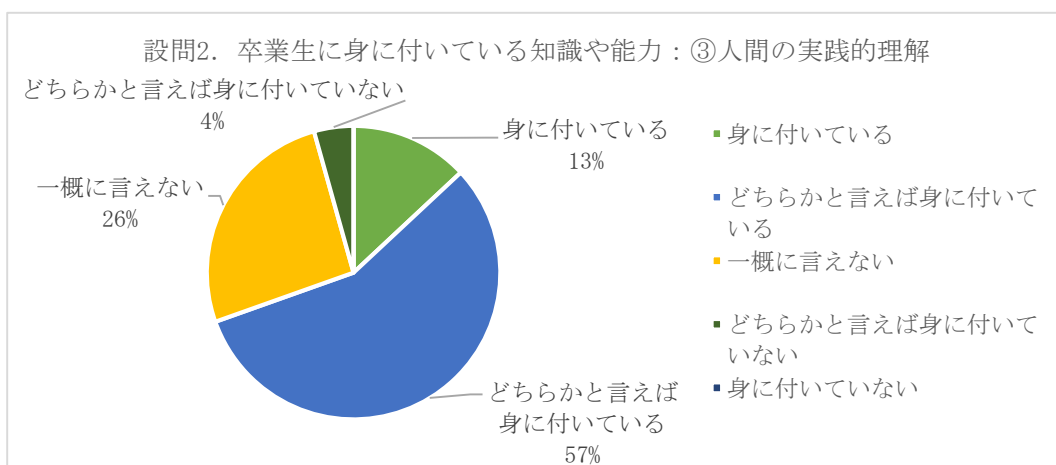
項目①「人間力：周囲の人々とコミュニケーションを通して理解し合い、共感し合い、協働することができる。」は「身に付いている」「どちらかと言えば身に付いている」の合計が70%となり、本学卒業生が「1)」で重視されていた人間力が備わっている傾向であることが分かる。



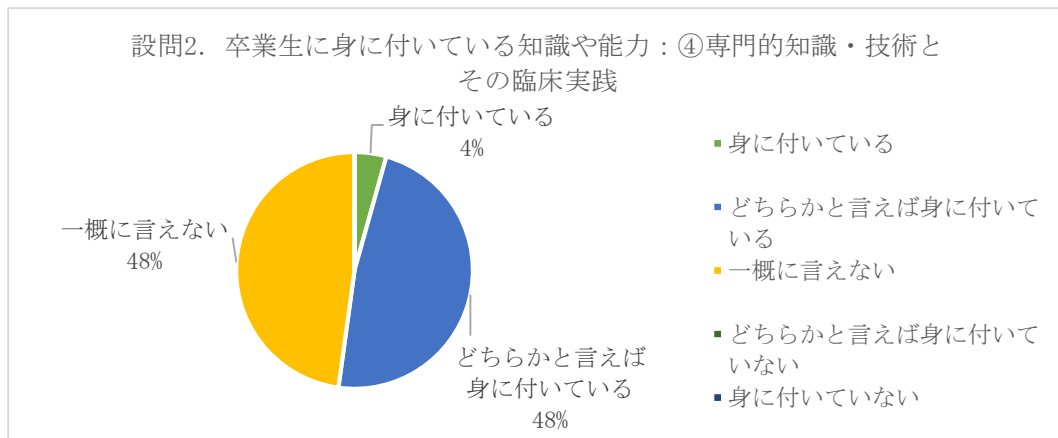
項目②「ケア・スピリット：相手の人生にとっての最善を目指して、自ら進んでケアに向かう姿勢を発揮できる。」は「身に付いている」「どちらかと言えば身に付いている」の合計は61%と高い傾向にあったが、「一概に言えない」が40%近くあり本学ケア・スピリットが身に付いていると言えるには弱い結果となった。



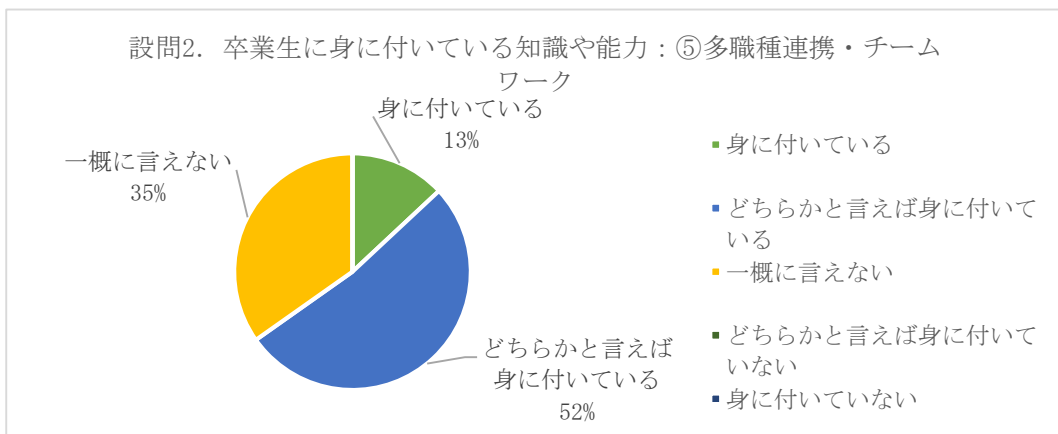
項目③「人間の実践的理解：ケアの相手の意向・気持ち・状況把握を共感的に理解しようと努めることができる。」は「どちらかと言えば身に付いていない」の回答もあるが、相手を共感的に理解しようとする姿勢が身に付いている傾向が70%と高い数値になっている。



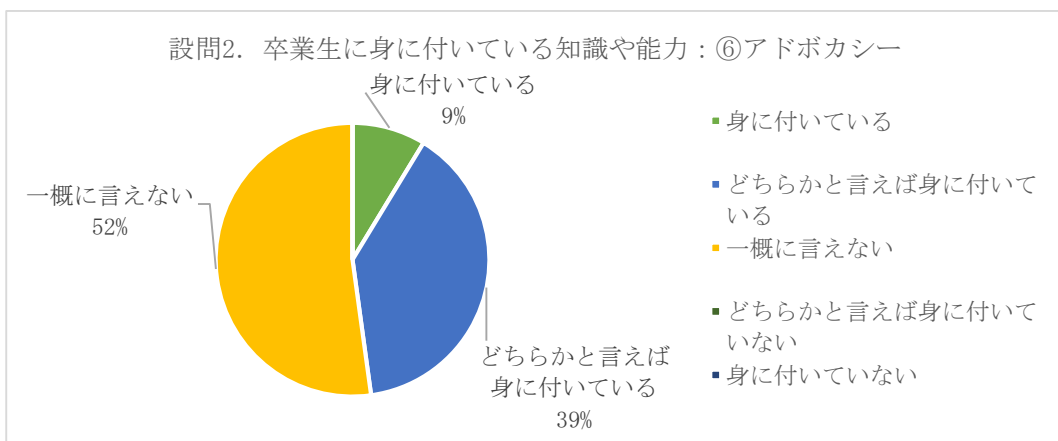
項目④「専門的知識・技術とその臨床実践：看護ケアに必要なコアとなる専門的知識・技術を備え、臨床の場での、具体的な対応に活かすことができる」は身に付いている傾向と「一概に言えない」の割合がほぼ半数となっており、卒業生の専門的知識や技術の充実に疑問が生じる結果となった。



項目⑤「多職種連携・チームワーク：チームメンバーや多職種のケア従事者たちと連携・協働することができる。」は身に付いている傾向が65%と高く、「1）」と一致する結果である。



項目⑥「アドボカシー：ケアの相手の側に立って、そのよい人生のために支援し、必要に応じて代弁ができる。」は、身に付いている傾向が48%と伸び悩み、一概に言えないが52%を占めた。卒業生においてはDP6項目の中で最も不足している要素であることが分かる。

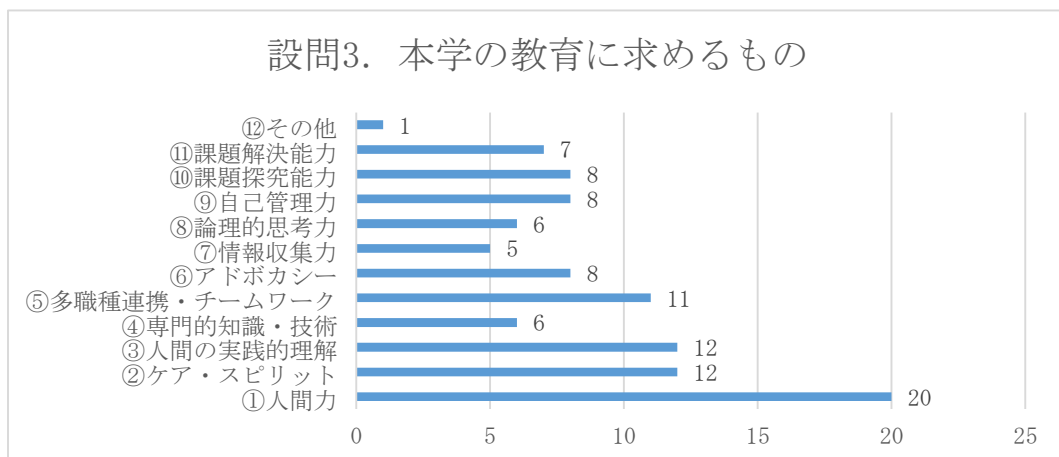


【自由記述】

- ・配慮に欠けた対応があり、家族から苦情があった。本人に伝え、再度看護実践するために指導しましたが、「言葉（ボキャブラリ）」の欠如があるのか、誠意のある対応ができず再び苦情となりました。現代の人間力として「配慮ある言葉」「誠意のある言葉」の育成に私たち自身も苦慮しております。
- ・当院へ就職した人の評価か、全体評価か対象が不明確。当院へ就職した人への評価としても回答が難しい。
- ・2年目看護師として周囲のスタッフや患者、家族と良好なコミュニケーションを図り何事にも前向きに取り組んでいます。前向きに学ぶ姿勢があるため、3年目も更に経験を重ねることで知識や技術を深めることができるのではないかと期待しています。
- ・手術を受ける患者に対し、気持ちに寄り添いケアを行ってけている。

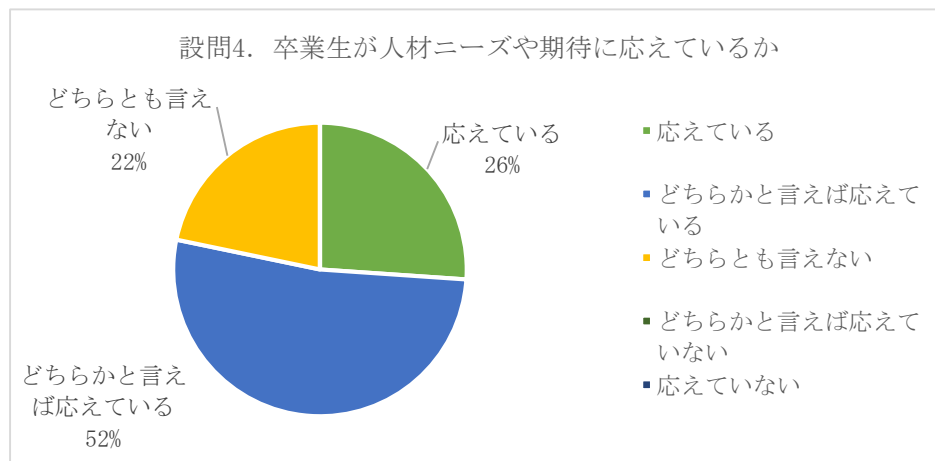
3) 設問3 本学の教育に求めるもの（複数回答）

「人間力」が20件「ケア・スピリット」「人間の実践的理解」ともに12件、「多職種連携・チームワーク」が11件、これら比較的回答数が多かった項目は採用時に重視している点と相違ないことが分かる。



4) 設問4 卒業生が人材ニーズや期待に応えられているか

「応えている」「どちらかと言えば応えている」の合計が70%を超え、比較的満足いただけていることが窺える。ただ、「どちらとも言えない」が20%あることは考慮しなければいけない回答率である。



5) 設問5 本学卒業生についてお感じになっていること、大学等への要望等について

【自由記述】

- ・ 当院には就職された方が少人数であるため、大学の教育によるものなのか、個人の特性によるものなのか判断しかねると感じます。
- ・ 就職先を決める時に、自分がどのような医療機関でどのような看護師になりたいのかイメージできると目標に向かって成長できると思います。様々な医療機関の見学や説明会に参加して見るように勧めていただければ良いと思います。
- ・ 本アンケートについて対象者が誰なのか探すことになりました。職員は大卒、専門卒等の区別で管理しており、どこの学校かまでは通常データとして残していないためです。今後このような卒業生に関するアンケートがあるのであれば、対象者のお名前があると助かります（可能であれば）。
- ・ 自分自身の態度（指摘された際に表情に出てしまう等）に気づいておらず、その部分を指導することから始まりました。後半になり成長を感じられ頑張っています。
- ・ 一年目として欠席もなく真面目に業務に従事できており、まずもって健康管理ができ社会人としての基本的な能力が身に付いていることに感心しております。指導体制も強化していきたいため、ご意見を交流できれば幸いです。
- ・ 自身の信念をしっかり持っており、落ち着き堂々と発言している姿がみられます。潜在能力が発揮できるような関りを持って教育していきます。今後ともよろしく願いいたします。
- ・ 当院は障害者の療養中心の病院となっております。生涯にわたり疾患と闘いながら療養する患者さんのケアを行っています。長期にわたり難病と戦う患者様を支える看護師はとても尊い存在です。当院は県内でも数少ない特定行為研修指定研修施設であり、医師不足といわれる岩手県の在宅医療の推進のためにも、看護の力で地域医療に貢献していきたいと考えています。慢性期療養型の看護に興味のある方、一緒に働く仲間として大切に育てて行きたいと考えておりますので、是非ご紹介いただけましたら幸いです。
- ・ 基本的な看護を実践することができており、当院の医療チームの一員として役割を発揮していただいています。
- ・ 臨床の場は想像していたこととかけ離れていることの方が多いと思いますが、心理的安全性が保たれる環境の中で働けるよう取り組んでいます。ひとりひとりが相手を思いやれることがとても大切だと感じています。そのような思いを持ってほしいと思います。
- ・ 卒業生は真面目です。協調性があり、チームの一員として働くことができています。倫理観は重要ですので今後とも教育を充実していただきたい。
- ・ 高度急性期病院のため、多忙で学習することも多いが、自ら学習し確実な業務を行っています。実習が少なかつたためかリアリティショックが大きいようでしたが頑張っ乗り越えました。社会人力なども少し学習に入れていただけると対応できるのではと思います。